

第3回国連防災世界会議 山谷議長 閉会挨拶（仮訳）

第3回国連防災世界会議の議長として、閉会に当たり、ご挨拶申し上げます。

5日間に渡る熱心な議論の結果、我々の新たなガイドラインとなる「仙台防災枠組2015-2030」、そしてその推進に向けて高いレベルでのコミットメントを示す「仙台宣言」が採択されました。

採択に当たっては、連日徹夜の交渉が行われてきましたが、これは我々が野心的な成果を目指していたことの表れでしょう。

まずは、会議に参加していただき、成果のとりまとめに貢献して下さった全ての方々に御礼申し上げます。

そして、会議の運営に当たった全ての方々、特に、国連チーム、開催国日本、開催都市仙台市及び東北地域、そしてボランティアの方々に、感謝申し上げます。

我々の新しい枠組は、災害リスク削減の取組は、コストではなく、持続可能で強靱な社会のための投資であるという考え方を明確にしています。そして、あらゆる政策に防災を主流化すること、より良い復興（ビルド・バック・ベター）、様々な主体の防災活動への参画の重要性を示しています。

この枠組の下、我々は、地方、国、地域、グローバルなレベルで、災害リスク削減の取組みを強化していきます。そして、本年、新たな開発アジェンダや気候変動枠組に防災の視点が組み込まれるよう、働きかけていきます。

意識啓発活動により、自助・共助の取組も促進していくべきです。日本では、11月5日が津波防災の日に指定されています。国際津波防災の日を制定すれば、世界中の防災意識も向上することでしょう。

是非とも、災害被害を最小化するために、みんなの力を結集しましょう。

最後に、会議参加者にもう一度、御礼申し上げます。特に、パイヴィ・カイラモ大使、タニ・トンパクディ大使、そして長時間に渡り、私たちがこのめざましい成果を達成するのを手助けして下さった通訳の皆様、本当にありがとうございました。

皆様、ぜひ安全な旅で、お帰りください。

ありがとうございました。